

巣子駅

だより

第 17 号
平成20年8月号
たきざわマイレールサークル
巣子駅会
TEL (019) 694-9622
編集責任者 山口 匡市



7月18日 待望の第一輪開花

「巣子駅の花」 やまゆい開花 !!

IGRいわて銀河鉄道では、花いっぱい運動を展開していますが、巣子駅では関係者(IGR、滝沢村、滝沢村東部まちづくり委員会環境部、マイレールサークル巣子駅会)で協議の結果、

「滝沢村の花」でもある「やまゆい」を植えることに決定、その後東部まちづくり委員会環境部の皆様方のご尽力を賜り着々と球根を確保、仕込鉢8個で仮管理(駅事務室外側の窓際)しておりました。

そしてこの夏、それぞれたくさんのおぼみをつけて元気に成長し、7月に入るとおぼみは見る見る大きくなり、7月18日朝、写真のように見事に第一輪が開花しました。

今後の駅前広場の運用との絡みもあって、地植えにするか、鉢植えでいくか、場所はどこにするかなどはまだ決まっていますが、旺盛な態勢をキープし、すたれる方向になつたりしないよう、まちづくり委員会環境部の皆様のご指導を仰ぎながら大切に管理していきたいと考えています。



第二輪目

他の鉢も次々と

スズメバチ 注意!!

もし、ご線橋などで遭遇したら、振り払ったり、急に走ったりしないで、『無視』する形で普通に歩行して通過するのが、刺されないコツです。



巣子駅近辺の地名の由来

ご存知ですか?

巣子駅公共広場のボードをご覧ください

駅舎北側に「巣子駅公共広場」が造られたことについては 第14号 でご紹介しましたが、この広場には線路側にボードが建てられていて、巣子駅近辺の地名の由来が記載されています。

すでにご覧になった方も沢山おられるかと思いますが、まだご覧になっておらず、かつ、関心のおありの方はどうぞ … 造りかけの『宿根草園』(仮称)の見物も兼ねてお運び下さい。



巣子 (すこ)
江戸時代、南部藩主は岩手山麓の滝沢村に鷹狩に鷹狩をするには割い賣らした鷹が必要であった。藩めにこの地にやって来た。巣の子を捕る里(郷)からのち「巣子」になっている。
巣子の南東、種馬飼育所の畑に、昔大きな三つ又が巣をつくって、その子を育てていた。藩では献上捕えさせて飼育し、そのなかより優秀な鷹を献上し、大きき比較の人間に慣れやすく、獲物を捕る技もよく

狼久保 (おいのくぼ)
江戸時代、狼が常に生息して巣をつくった穴がたく久保」と呼ばれた。
昔、滝沢の野には、鹿のほか猪・狼・熊など平常獲が豊富に採られていた。

葉の木沢山 (はのきさわ)
横(はん)の木(カバノキ科の落葉高木)が密生していた七か「葉の木沢」と呼ばれた。

明神平 (みょうじんだ)
川治いに、農神(のうがみ)・明神(みょうじん)さんがあったことから「明神平」と呼ばれた。
「稲荷(いなり)」は「明神」とも呼ばれていた。「稲荷」を祀り川治いや清水が湧き出るところに祀られていた。

妻の神 (さいのかみ)
女の人が亡くなって、その霊を慰める神を祀った。亡くなった人を弔うために祀った神から「妻の神」と呼ばれた。

松屋敷 (まつやしき)
康平5年(1062年)前九年合戦で厨川橋に安倍一住まわせた屋敷がこの地にあって、婦女子が責任が薄く屋敷から「待屋敷」と呼ばれ、のち「松屋敷」と呼ばれるようになった。『待屋敷』と「安倍館」の間を舟で往来した。

世相漫評

「癒しのパンダ」

ここは巣子駅前広場
永田町よりここは落ち着きますよ
もちろん震災復興が第一に思っていますが・・・
本物のパンダはいつのことやら

巣子坊

